

会 議 録

会議の名称	平成 19 年度第 1 回富士見市青少年問題協議会
開催日時	平成 1 9 年 8 月 7 日 (火) 午後 1 時 30 分 ~ 3 時 30 分
開催場所	市役所全員協議会室
出席者	浦野 清会長、津波 信子委員、赤坂 勲委員、森元 州委員 長嶋 義雄委員、新井 永子委員、関根 宏委員、彼ノ矢 護 委員、石川 雅美委員、大石 保雄委員、田坂 佳宏委員、 田中 悦子委員、萩原 茂昭委員、山田 一江委員、尾崎 利 行委員、高梨 イツ子委員、羽石 貴裕委員、石川 正三委員 事務局 (寺沢生涯学習課長、谷口主査、寶田主任)
欠席者	有賀 輝彦委員
公開・非公開	公開 (傍聴人 0 人)
会議次第	会長あいさつ 委員自己紹介 会長職務代理者指定 平成 1 9 年度青少年関係事業の概要について 講話「家庭教育の大切さについて」 講師 富士見市教育委員会教育長 赤坂 勲 氏 青少年健全育成について意見交換
会議資料	富士見市青少年問題協議会委員名簿 平成 1 9 年度青少年関係事業の概要 望ましい家庭教育を考える - 本市生活実態調査からみえた家庭教育の課題 -

会 議 内 容 (要 点 記 録)

会長あいさつ

協議会開催にあたり、浦野清会長があいさつを行なった。

委員自己紹介

委員全員が自己紹介を行なった。

会長職務代理者指定

富士見市青少年問題協議会条例第4条第3項の規定により、会長職務代理者として赤坂委員を指定した。

平成19年度青少年関係事業の概要について

平成19年度青少年関係事業の概要について、事務局担当職員が説明を行なった。

1. 富士見市青少年問題協議会の開催
2. 青少年育成団体の支援
 - (1) 富士見市青少年育成市民会議
 - (2) 富士見市青少年相談員協議会
 - (3) 富士見市青少年育成推進員の会
3. 地域子ども教室推進事業

講話

テーマ「家庭教育の大切さについて」

講師 富士見市教育委員会教育長 赤坂 勲 氏

家庭教育に関して本市がおこなった調査結果、また国際比較調査の結果から考察される望ましい家庭教育とその課題について、資料に基づき説明がなされた。

青少年健全育成について意見交換

委 員：家庭教育は今こそ大切なのではないかと思う。子は親の鏡と言うが、まずは自分の家庭から実践していきたいと改めて感じた。

委 員：家庭、学校、地域、そして今日この場にお集まりのそれぞれの団体がお互いに連携し、問題を抱え込まずに解決に当たっていくことが大切ではないか。行政としてもそのための道筋をつけていかなければならない。

委 員：以前は隣近所のおじさん、おばさんからいろんなことを教わったり、話しかけられたりした。住宅の変化などに伴いそういう環境でなくなったが、そうしたことも地域の教育力の低下ではないか。家庭では、親が子どもの話を聞いて受け入れてあげる態度が望まれているのではないか。

委 員：夏休みに入り非行の低年齢化が目立ち、中心は中学生に移ってきている。事件を起こす子どもたちは、家庭に恵まれていない子が多い。子どもに目が向いていない親を、どう子どもたちの方に向かせるか難しい問題だが、何かあれば早めに警察の方へ連絡をいただきたい。

委 員：地元唯一の高校として、地域と連携し誇れる学校づくりを目指している。誇れる学校であれば、自然と自分の居場所を見出せるし、そうしたことが地域への還元にもつながってくると思う。

委員：子どもの教育を考える時、ほとんどの保護者は我が子の教育、特に我が子の学力について考えているが、学校としては子どもたちみんなの学力、人間形成を考える、まずそこに違いがある。また、都市部の小学生の生活が昔と変わってきている。資料にもあるが、4年生から急に仲のよい友達がいなくなる。これは学力向上のため習い事をしている子どもが多くなることと関係がある。友達と遊べなくなっている。現在、本校では子どもと教師の人間関係づくりが重要であると考え学校教育を進めている。いたわりの心、思いやり・優しさの育成が重要ではないか。

委員：非行の低年齢化、中学生が変わったなというより親が変わったなと思う。子どもたちの人間関係づくりができていない。学校では、ソーシャルスキルトレーニング、コミュニケーションモラルの向上など行っているが、突き詰めると親の家庭教育に行き着く。言語環境が悪い家庭では、子どもの言葉も荒れてくる。本校でも朝食をとらない子が12%いるが、原因は夜遅くて朝起きられないこともあるが、朝食が用意されていない家庭もある。朝食をとる習慣がない、どこが悪いという親もいる。朝食と成績の関連も教育長の話にあったが、保護者会等で触れていきたい。

委員：物があふれすぎているなど子どもを取り巻く環境が大きく変化した。子育てに関し父母の意見の違いもある。家庭環境が一番大切で、親子間の殺人が起こるなど家庭が破壊されてはいないか。命の大切さなどきちんと教えていかなければならない。今こそ親子のきずなを大事にしなければならぬ。

委員：国際比較調査の結果はショックだ。ルールを守る、相手を思いやる点で、これ位ならいいだろう、少しならいいじゃないかの気持ちが拡大解釈に繋がる。

委員：いろんなジャンルの団体の方が出席され、いいお話しも出て、私たちの世代の母親に聞かせたい。テレビから子どもに見せたくないような情報も流れ、どうかと思うことがある。また、家庭環境に問題がある家は、地域活動に参加してくれない。

委員：保護観察になった少年の家庭をみると、「生活に追われているから子どもの面倒など見ている暇はない」等、子どもに目が向いていない親が多い。怒られたりばかりの子どもは、誉められることや、母親の愛情に飢えている。

委員：川越刑務所を訪問して子どもと話しをすると、本当に家庭が崩壊しているのを感じる。普通に話しかれることに子どもは喜びを表すし、いろいろ話もしてくれる。地域や家庭で関わってあげていたら事件も起こさなかったらと思う。

委員：いじめを受けている子どもが多いことと、家庭教育の必要性・大切さを改めて思った。校長先生のお話しにもあったが、子どもたちが家庭・学校・地域など、属性をもつことが大事だと感じる。そのための環境づくりをしていかなければならない。また、親は教える立場と教わる立場の違いをわきまえなければならぬ。今日の話をも PTA 常任理事会にも報告していきたい。

委員：瀬戸内寂聴氏が、「家はあっても家庭はない、この家庭とは癒しの場であり、今癒しの場がない。食事と寝が欠けていて、この弊害が思春期の子どもに

出てくる。また、命の大切さを伝えていかなければいけない」と講演で話されていた。私たち大人が姿勢を正して、子どもに語りついでいかなければならないことがある。

委員：「大人が変われば子どもも変わる」、これは青少年国民会議のスローガンだが、そのとおりだと思う。子どもの居場所がないのと同時に保護者の居場所もないのではないか。それ故地域の活動につながっていないのではないか。

委員：今の父親は家庭に居場所がなく、家族にも大事にされていないのでは。父親は子どもの教育に積極的に参加しない、また手伝いもしない、そんな状況で子どもにいろいろ言っても難しい。学校に家庭内のことを持ち込むのではなく、家庭内での父親の役割を見出していくことが必要では。父親が生き生きして入れば子どもも生き生きする。

会長：委員からの意見等を今後の市政運営に生かしていきたい。

閉会あいさつ 事務局 寺沢生涯学習課長